想創奏

そうそうそう

SOUSOUSOU

そうそうの杜の
想いを創って奏でる機関誌

2024年11月号
vol.60

発行人　荒川輝男
編集人　松本智幸
デザイン　北橋惇



welfare, well-being!

最新活動情報

理事長の言葉、アンケート、旅行、鴨野エリア活性化イベント…法人の様々な『想い』ある活動をご紹介

読み物

ミャンマー情勢、そうそうの杜の歴史、エッセイ、インタビュー、福祉必見の書籍、利用者の声が『創る』読み物

エンタメ企画

おいもの国のアリス漫画、そうそうの杜グルメ&アート、そうそうの杜で『奏で』るエンタメ企画



想創奏（そうそうそう）

NO.60

CONTENTS

—— 法人の活動

・理事長のことば…荒川輝男
・家族会アンケート…真頼正施
・4事業所合同旅行…山川真司
・Prife夏旅行…中世古恭規

—— 鴫野エリア

・近隣の方へのインタビュー…山川真司
・大流しそうめん2024…真頼正施
・風鈴街道について…梶山太一
・鴫野の魅力再発見…中島秀樹

—— コラム・読み物

・これまで、これからのそうそうの杜…田島、則竹
・ミャンマーについて…アウン、ティン
・エッセイ…關宏之、和田数子
・福祉に携わる者なら…關宏之

—— エンタメ

・そうそうの杜自慢のグルメ…山口佳純
・そうそうの杜アーティスト…駒澤美羽
・連載漫画『おいもの国のアリス』…北橋惇

—— お知らせ

・発酵創作Bal&Cafe1037オープンのお知らせ
・本の出版、配信者募集…北橋惇
・そうそうの杜メディアリスト
・寄付のお礼、事業所一覧

理事長のことば

地球温暖化の影響か？

荒川 輝男

もう11月なのに、かぐやかな匂いが漂ってくる。何かと思えばすっかり忘れていた金木犀。金木犀と言えば9月から10月にかけて漂うものと思っていたが、こんなにも時期がずれるとは？

今年度は、法人の運営をスタートして、最大とも言える危機を迎えているのではないだろうか。

スタッフの退職が相次ぎ、現場の対応に支障をきたし、結果利用者にマイナスの影響が出てきており、この事態を何とかしなければいけないというぎりぎりの所まできている。

しかし、人を雇えばすぐに解決するかと言えばそうではなく非常に苦慮している。

先日、理事会で議案が終わった後で介護労働者のなり手がいないという話題になった。監事の鍋島氏（社会福祉法人和・理事長）より「福祉新聞」の論説（結城康博さん 淑徳大学教授）記事の紹介があった。以下のとおり


一草一味

職員ファーストの時代に

「職員ファーストの時代に」
結城康博 淑徳大学 教授

《一部を除き、大半の福祉現場では保育士、介護職員、ケアマネジャー、看護師の人材不足に頭を悩まされている。このような現状において、少しでもサービスの質や供給量を維持するために、「利用者ファースト」から「職員ファースト」の理念を提唱したい。

もちろん、福祉現場の末端で従事している専門職は利用者ファーストの理念を持ち続けるべきである。しかし、福祉施設の経営者や管理職は頭を切り替えるべきだ。今後、抜本的な福祉充実策が講じられない限り、職員ファーストに経営方針を切り替えていかなければ、一定の福祉サービスの提供ができなくなる。

なぜなら、権利意識の強い利用者や家族からのハラスメントなどによって福祉従事者は精神的に 疲れ、離職につながっているからだ。特に、理不尽な利用者対応を迫られるという評判によって、福祉現場がますます不人気な職場となっている。多くの利用者は良識のある人たちである。しかし、一部のケースであっても、人材確保・定着に支障を来すのであれば、このような利用者にはサ ービス提供を控え「利用者を選別」する覚悟で、経営者や管理職は臨むべきである。

もはや、すべての利用者に福祉現場で対応することは難しい。どうしても経営者や管理職は利用者ファーストの理念が先行して、処遇困難ケースでも受け入れることが福祉専門職の使命と考えがちだ。しかし、少子化などにより職員ファーストで物事を考える時代となっている。

社会福祉学者である私がこのような案を述べると、多くの人から批判を受けることも承知している。しかし、昨今の人材不足の現状を直視するなら、職員ファーストは利用者ファーストのプロセスと考えるべきであろう。まずは「人」あっての福祉現場なのだから。

では、一部、処遇困難ケースなど選別された利用者は、誰が対応すべきなのであろうか。それは、措置制度を再興して市町村など直営の福祉サービスが担うべきと考える。そのため、市町村による直接的な福祉サービスの提供体制も提唱したい。》

この奇想天外にも思える発想になるほどと感心させられた。（＊注 傍線は筆者）

法人の日本人スタッフは、役割を十分理解して働き、草創期から積み重ねてきた歴史があり、体制の充実に対しての貢献度は非常に高いものがある。しかしここ数年は採用しても短期で退職することが多くなり、直接支援に影響が出てくることが多くなった。

一方、この事態が生じることが予想されたので3年前から外国人の雇用をスタートし、特に今年度からは福祉専門学校を卒業したフレッシュなスタッフ（ミャンマー国籍7人を3年間かけて養成）を雇用した。それまでの外国人2名（うち1名退職）と専門学校生3名（アルバイト雇用）と特定技能の1名と採用し合計12名が働いている。

外国人スタッフについては、優秀でまじめに働いてくれるので、ついつい日本人スタッフと比べてしまい日本人の働き方に対して愚痴を出したくなってくる。しかし記事にあるようにむしろ我々の側の頭を切り替えていかなければならないということである。

私自身、この仕事が楽しくて、結果これで給料がもらえるのなら最高と思って従事してきたので、感覚的に時代の中での働き方の意識の変化になかなかついていくことができていないのかもしれない。よく考えてみれば職員ファーストは当たり前のことで、私自身が利用者ファーストを先行させるばかりで、実は大事なことを欠落させていたのかもしれないと反省している。

この記事に見られるように、昨今の人材不足には、大きな決断が必要なのだろうと改めて実感した次第である。

ENQUETE

家族会組織化に関するアンケートについて

真頼 正施

2024年度家族説明会を開催した際に、家族が話すことができる場の設定や企画ができればよいのではないか…保護者会や家族会という組織があってもよいのではないか…という意見がありました。5月末を〆切として、アンケートを実施し、180部を配布しうち106部回収、回収率は58.8%でした。ご協力いただきありがとうございました。

さて、アンケート結果は以下の表のとおりであり、寄せられた意見についても載せさせていただきました。簡単にまとめると、家族間で意見交換や交流できる機会や場の設定があればよいという意見は69%、家族会の設立については47%が賛同しています。しかし、家族会への参加については、積極的に参加したいが26%で「いいえ」が53%でした。法人・事業所への要望などにあるように、組織化することで、様々な弊害が起きうることを危惧する意見がみられました。そのうえで、それぞれの家庭事情も絡み、世話役や役員の負担などを考えると参加自体が困難であるとの意見がありました。

しかしながら、69%の方が何らかの意見交換や交流の場があった方が良いという結果が出ていることは事実であり、Prifeが実施する交流の機会を増加するまたは拡大することも必要と考えます。その際は、皆さまにご案内させていただきますので、ご活用ください。

2024年度 家族会組織化に関するアンケート 結果

対象：利用者・家族／配布：180／回答：106／回収率58.8%　2024.6.6現在

事業所	項　目	回答数	はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答	特　記
全体	利用者・家族間で意見交換や交流の機会があった方が良い	106	73	21	7	69%	20%	7%	Prifeは年2回としていたが3回くらいあってもよいかと思いました。 先輩の保護者の方のお話はとても来てみたいです。
	利用者・家族の組織として「家族会」があった方が良い。	106	50	42	12	47%	40%	11%	高齢の母もいていっぱいいっぱいです（一部省略）。 家族会の組織化は難しく感じるので、まずは意見交換の茶話会等があってもよいと思います。
	「家族会」に積極的に参加したい。	106	28	56	15	26%	53%	14%	参加できないことが多い。 積極的に参加できないけれど、機会があれば参加します。 家族会がある前提で質問しないでください。 組織化した時に役員などは余裕がなくてできないです。すみません。
法人・事業所への要望など	・スタッフの皆さま、いつもお世話いただきまして感謝しております。毎年の家族説明会開催日が、母の日と重なりますので欠席せざるを得ませんのでご配慮いただけないでしょうか？ ・家族は専門知識がない上、自分の家の利用者を中心に物事を考える。自分も然り！ゴタゴタした人間関係もしんどいし、本人一筋に24時間生きれない。家族会がないのがそうそうの杜の魅力でしょう？公平な目で見る指導員と自分の家族が中心の家族…これは学校の問題と全く一緒で考え方にズレがある以上、問題は絶えない。また、マウントを取る家族が必ずどこにでもいる。家族会なんてまっぴらごめん！！私はあっても参加はしません。 ・利用者・家族間の交流の機会は可能な限り出席希望ですが、”家族会”という組織を作れば、家族会の中心となるメンバー数名が抱える問題のみが”家族会の主題”となってしまいほかの利用者さんやその家族の問題が淘汰され、なあなあの組織になる気がする。（先日説明会に出席して何となくそう感じた。言ったもん勝ちはやめてほしい。）利用者さんその家族様々な障がいや問題があるのでそれらをひと括りにするのは不可能だと思います。それならば利用している事業所内での交流の機会を増やしたらいいのでは？（それでもけっこうむずかしいと思う）個人的には利用している事業所内のスタッフさんとはいろいろ話はしたいです。 ・初めて説明会に出席させていただきましたが、そうそうの杜の長い歴史の中で、なぜ今頃になって家族会云々の議題が出るのか理解できない。もし、必要ならばすでに”家族会”という組織があるのでは？また、家族会に賛成の方に聞きたいのですが、そもそも家族会事態に参加されない方や興味のない方は今後どうしたらいいのか？今の生活リズムに満足な方やギリギリ精一杯な方々がおられるのをお忘れなく。 ・家族会より当事者会の方を組織化することが望ましいと考えます。								





AWAJI ISLAND

淡路島

旅行

4事業所合同








日程　2024年7月18日(木)～19日(金)

参加　就労・生活介護・自立訓練

4事業所合同旅行in淡路島



つむぎ館・座座・創奏・心　　山川 真司











今年度から、就労としてではなく幅広く他の事業所（生活介護・自立訓練）にも声をかけた合同旅行だが、今まで行ったことのないスタッフだけでなく初めての利用者も沢山おり、中には砂浜に出られない、海には入れないと思うなどと言いながらも、楽しみに参加してくれた。

先ずは、行きの道中では初めての人を中心に挨拶をしていく形でパスレクを行う。最初は恥ずかしがっていた人も到着前ごろには楽しんでいた。

天気も最高に良く晴れて海水浴日和になった。二回目の宿ではあるが、昨年とは少し違って、昼食場所は広くて使いやすかったが、着替えるところが予想以上に狭くバタバタしてしまった。が、何とかみんな着替えもでき海水浴へ！

海に入らないと言っていた人もいたが、なんとみんな海に入った！しかも楽しそうにはしゃいでいる姿が見られ、本当に旅行はいい！と感じた。いつもは人を見て、怒ったり、ツーンとした態度をとったりする人から、自分から動けなくなってしまう人まで、どんどん行動的に動かれるし、足の感触が嫌だと言っていた人も、全くそんなことを見せることもなく、海に入ってすごくいい笑顔を見せてくれた。

初日は、お昼からという事もあったが、すごくみんなが楽しめたこともあり、あっという間に海から上がらなければいけない時間になったと感じるぐらいだった。

海レクもそれぞれが考えながら投げるボールが面白いように跳ねて転がることで、予想外の難しさだったが全員が投げて楽しめていた。

お風呂は程よく広く、ほぼ貸し切り状態で入れた事もあり、のんびりとできた。夕食も宴会場で次々に出てくる食事を好き嫌いがありながらも、いつもなら残す苦手なものも食べられている人がいて感動した。

宴会では各部屋ごとの対抗で競い、それぞれが他者を巻き込みながら参加することもでき楽しめていた。

2日目は、朝食がバイキングで流れが悪く取りづらさは感じたが協力しながら、それぞれが食べたいものを食べて満足気だった。

初めての人もいながらも、スムーズに動けており、二日目の海水浴が始まる。二日目になると高齢もあり入らない人もいたが、それぞれ昨日に続き楽しんでいる。最初は昨日と比べ海水が冷たく上半身までは入れなかったが、水がかかると「冷たい！」と笑ってかけたりする事で楽しめた。

鳴野に到着するまで、みんなが本当に楽しんでいたという事を、今回は特に実感できた良い旅行でした。また、たくさんのスタッフから、普段見られない姿が見られて嬉しかったという言葉がたくさん聞けました。

これからも、旅行という普段とは違う機会を大事にしていきたい。



Prife

三重県・御座白浜

藤原荘 夏旅行

海水浴、志摩スペイン村、BBQ、
花火、温泉…夏の楽しみがいっぱい詰まった

2泊3日の旅





藤原荘とは

日本ライトハウスで視覚障害者の支援に生涯を捧げられた藤原静江さんが、遺産をそうそうの杜に寄付していただいたことで、保養所「藤原荘」を購入することができました。御座白浜の海を眺める絶好の保養地で、利用者さんの夏の思い出を作っていきます。

行程表

1日目
志摩スペイン村、温泉

2日目
御座白浜で海水浴、BBQ、花火

3日目
伊勢観光









そうそうの杜旅行

Prife夏旅行レポート



三重県志摩市御座白浜・藤原荘　　中世古恭規



今回は、Prifeの利用者のみで、しかも2泊3日の旅行を決行しました。

最近の物価高騰の影響もあり、いくらかかるのか？どれだけ利用者負担になるのか想像もつかない状態になっている中2泊3日の旅行…不安から始まる企画でしたが、法人として昨年度購入したそうそうの杜保養所（藤原荘）に泊まる事により少しは安く設定できるのでは？と考え行程表を作り、どこにいくらかかって予算がいくらで…と考えれば考えるほど結構かかるやん！一人でブツブツ考えながらスタッフ総出で企画しました。



1日目…

荷物をパンパンに詰めたレンタカー3台に利用者13名スタッフ7名（2日目に荒川理事長合流）各々乗車しいざ出発！まず伊勢周辺で昼食予定でしたが、新名神で通勤ラッシュに巻き込まれ大渋滞！当初予定していた場所ではない所で昼食（サービスエリア）を取る羽目に。しかし、各自好きなものを注文してこれはこれで大満足して目的地のパルケエスパーニャへ気持ちを切り替えて出発！この時すでに1時間予定より押している…(>_<)　サービスエリアを3台ほぼ同時に出発して向かう中、昼食を食べ皆さんウトウト。しかも、1台が謎に30分も早く到着するという何とも言えない現象が起き、時空を超えたのか？…等の声が飛び交う中、パルケエスパーニャに無事到着し、最初にチームコースターアイアンブルと言う暗闇を駆け抜けるジェットコースターに乗り、何人かはダウン！もう激しいのには乗りたくないというチームと乗りたいというチームに分かれ夕方まで目一杯遊び、隣に併設されている【ひまわりの湯】という温泉施設で汗を流してから、車で走る事30分お食事処ひでちゃんで夕食！刺身やミックスフライなどめちゃくちゃ美味しい夕食を食べ大満足！初日は濃い～1日でした。







2日目…

1日海で遊び倒しました。快晴の中朝から海に出掛け各々浮き輪を片手に海に入って行く人、勢いよく海に駆け出す人、恐る恐るゆっくりと海に向かう人と色々でしたが、人影も少なくほぼプライベートビーチ状態。上を向けば真っ青な空！海はエメラルドグリーン！しかも遠浅とサイコーのビーチで皆の笑顔がこぼれまくってました。昼食はそれぞれ車チームごと交代で海の家に食べに行きました。また、昼からは荒川理事長も合流しSUPを借りこけまくってましたが、必死にバランスを取りながら楽しんでいました。

朝から海に入っていた事もあり真っ赤に日焼けして辛そうな利用者から先に上がり夕食の準備を徐々にしていきながら庭にもテントを張り着々と夕食の準備を進めて行って2日目のメインイベントBBQを開始！お腹いっぱいになるまでこれでもか！と言うぐらい食べていました。（笑）

食後にはここ数年全くできなかった花火を海岸に持って行ってうっぷんを晴らすようにみんなで手持ち花火をしたり、打ち上げ花火をして楽しみ花火が終わって宿に戻ると荒川理事長が皆の為に冷たく冷やしたスイカを切って待ってくれていました。あれだけお腹いっぱい食べたはずなのに…別腹みたいです（笑）









3日目…

最終日、朝から海に泳ぎに行くメンバーと、海に行くが泳がないメンバーと、残って後片付け＆掃除をするメンバーと別れて（ほとんどのメンバーは海に行きましたが…（笑）

11時には2日間お世話になった藤原荘を後に伊勢の夫婦岩＆伊勢めおと横丁（お昼、おみやげを買い）に向かいました。伊勢に到着するとまずお昼ご飯を食べに伊勢めおと横丁団体室の海の見えるオーシャンビュー席に案内され絶景を見ながら海鮮丼を頂きました。食事の後は各車チームで夫婦岩を見学に行ったり、お土産コーナーに行き家族用のおみやげや、自分用のお土産を買いに目を輝きさせながら見て周り、しっかり試食できるものは試食して決めていました。（笑）

今回の旅行は2泊3日という事レンタカー3台に分乗して行ったという事、また、三重の御座白浜と結構遠方になった事で今までにない旅行になりましたが、ゆっくりとしたプランで、普段見られないみんなの笑顔に癒され充実した3日間になったと思います。今回の旅行を通じて反省点なども一杯ありましたが、来年に向けてもっとより良くしていきたいと感じさせられた旅行になりました。

おつかれさまでした。







INTERVIEW

02

いつもお世話になっております／近隣の方へのインタビュー



地域活動協議会
杉田ちあきさん
篠原京子さん

今回は地域活動協議会で活躍されているお二人にインタビューしました。

インタビュアー
山川真司（写真中央）

ご近所同士の密な関係が昔の良さだった

山川：今日はよろしくお願いします。早速ですがお二人はいつから鴫野にお住まいですか？
篠原さん：私は生まれたときから！
杉田さん： 私は結婚したときで、夫が地元です。 夫はここで生まれ育って…
山川：篠原さんが小学校ぐらいのときに、どれぐらいの子供さんがいました？
篠原さん：学年4クラスで１クラス40人ぐらいかな？近くの子どもたちだけでも遊べました。ガード（JRの高架）を越えて遊びに行くこともあまりなく、十分遊べた。今は、お友だちの家を往き来して遊ぶような事は、少ないように思います。
杉田さん：働くお母さんが増えたということなのかもしれない。習い事で子供が忙しい、そうじゃない子も「いきいき」 に行ってるんちゃう？学校が終わって「いきいき」で過ごして･･･昔から「いきいき」は高学年くらいになるとあんまり行きたがらない。宿題やってから、遊ばせてくれるから親としては助かるよね。
篠原さん： 一歩外出たら子供と出会えてたけど、最近そうでもないのかな？というイメージはしますよね。
山川：昔が良かったなって思えることとか。
篠原さん：やっぱりご近所の、ご近所同士の密な関係。小学校終わって帰っても、当時は鍵もあんまりかけてなかった。いなかったら、 近所のおばちゃんのとこ行ったら、そこでお母ちゃんが喋ってる、みたいな…専業主婦の女性多かったからかなあ…。
杉田さん：初めて小学校で私が委員長候補やったときに、委員長やるのは嫌やって言ったけど、条件出したんですよ。子供が学校にいる間に活動したいから、専業主婦だけ集めてほしい。って、本当に集まったからね。全員専業主婦やったから、それから午前中に広報活動して、昼になったらみんなでランチに行ってた。今は同じような活動しようと思ったら、夜に集まったりとか土曜日・日曜日に集まらないといけない。それは、負担ですよね。



地域活動協議会とは

地域活動団体などが連携・協力して自らの地域のことは自らの地域が決めるという自律的な地域運営を実現していくための仕組みが地域活動協議会です。

これまで地域活動を担ってこられた地域振興会（町会）や地域社会福祉協議会などの地域住民の組織をはじめ、NPO、企業など様々な団体が幅広く参画し、民主的で開かれた組織運営と会計の透明性を確保しながら、防犯・防災、子ども・青少年、福祉など様々な分野において、活動を行っています。



ご近所さんとつきあいがあったらいいな、子どもたちから巻き込んで、町会に入ってもらうのを楽しくしたい。

みんな働いているからね。それを思ったらなんかあの頃はやっぱり良かった。楽しいことが多かった。
山川：ちょっと真面目な話で質問しますね。これからの地域をどうしていきたい…とか、どうなってほしいとかありますか。
杉田さん：ご近所さんと付き合いがあったらいいなみたいな。したらうっとうしいなと思われるかもしれんけど。
篠原さん：まだ若いからちゃうん？
杉田さん：町会離れがひどくて、昔みたいに町会に入らないといけないと今の人は思っていないというのが顕著なんですよね。だから、子供たちから巻き込んで行きたいと思っているんです。町会に入ってもらうのを楽しくしたい。現役の親が役をやるのではなくて子育てが終わった私たちがやればいい、って思っているんです。
杉田さん：コスモスプロジェクトっていうのがあってね。城東区の小学校・中学校の卒業のコサージュを渡すという。コスモスは城東区の花で子供たちに城東区に愛を持ってもらう目当てがあって…4、5月から花びらを染めるところからやってます。1年間かけてるプロジェクト。そもそも城東区の区長さんと提携して始まりましたが、今は民間のボランティアになって続けています。
山川：色々な話をしましたが、これからそうそうの杜に期待することって聞いてもいいですか？
杉田さん・篠原さん：頑張ってください。（声を合わせて）（笑）
篠原さん：そうそうさんもマンパワーがあるので、これしましょうと声を上げていってくれてもいいかなと思いますけど。
山川：たくさんの話をしましたが、今までとこれからの狭間でいる時代だなと痛感しました。変わらなければいけない事、継続していきたい事、繋げていきたい事、昔はよかったなと思う事。色々な事を迷い、でも前に進んでいる力強さが感じられました。わたし達そうそうの杜も地域の一員としてこれからも一緒に力を合わせて、地域作りに勤しんでいきたいと思います。今日は本当にありがとうございました。これからもよろしくお願いします。



夏 南鳴野商店街 大流しそうめん2024

3年振りの開催！



2024年8月14日（水）に、鳴野活性化プロジェクトとしてそうそうの杜と南鳴野商店会の主催で、「大流しそうめん」を開催しました。南鳴野商店街を会場とするこの「大流しそうめん」は2018年から開催され、新型コロナウイルス感染拡大のため中止した年（2020，2021，2022）を除いて、今年で4回目となりました。昨年は法人関係者のみに参加者を制限して事業所ごとに出前方式で実施しました。規模は小さかったですが、3年ぶりに流しそうめんができた時の喜びを今年の開催へのモチベーションとして、今年の開催に臨んでいました。



畑チーム自作の巨大流しそうめん

毎回のことではありますが、畑作業チームが奈良で採取した竹を持ち込み、
①ナタで割る
②節をノミで取り除く
③グラインダーで滑らかに仕上げる
④竹の組み合わせを決める
⑤竹同士を結束バンドで連結する
これらの作業を経て、当日、脚立に固定したりアーケードから吊り下げることによって、勾配を調整、そうめんを流すことができる装置として完成させることができました。猛暑の中、利用者とスタッフが流した血と汗と涙の結晶です。

これからも地域とともに



今回は、水とそうめんを流し始める起点から、東西それぞれ2方向に竹を配置し、高さの異なる大人レーンと子どもレーンを準備しました。2つのレーンを合わせて、全長約30m超の大流しそうめんとなりました。一般参加者は、予約のみならず当日参加を含めて30名程度、利用者100名程度、スタッフ・関係者が40名程度であり、参加170名を超えるイベントとなりました。3世代で参加している家族もあり、障害の有無や年齢性別関係なく、南鳴野商店街は歓声と笑い声であふれかえっていました。

昨今、超高齢化社会…8050問題…地域で住民同士のつながりが薄れている…町会役員の担い手がいない…だんじりの引手が不足している…などの地域課題が聞こえるようになりました。地域共生社会の実現がこれから目指すべき一つの形でしょう。そうそうの杜としては、この鳴野地域の中で協力できることは何でもやっていこうというスタンスで日々活動しています。これからも、地域の皆さまと一緒になってより暮らしやすい街になるよう、できるところから協力できればと考えます。



真頼 正施

「大流しそうめん」やその他のイベント開催の目的は、地域の皆さまとの顔の見える関係づくりでありそのきっかけにすぎません。「こいのぼり」「ぼっチャ＆モルック」「風鈴街道」「路上作品展」など、年間通じて様々なイベント企画を実施していきますので、これからもどうぞよろしくお願いします。

利用者レポート

風鈴街道について



杜のShokudo　　梶山 太一

去年と同じくして、風鈴街道の準備をしていた。箱から風鈴を取り出して、ついているひも（糸？）をさおに引っかけてガムテープで貼る作業をした。

一定感覚で、風鈴をつけたさおにつけてかけていく作業。そうそうの杜関連のたなごの前やアーケードの欄干に風鈴ぶらさがっている竿竹をかけていった。それから毎日、風が吹くごとにリリリーンと音色がする。風流とは、このことを言うのだろう。蒸し風呂のような陽気が続いているが、風鈴が鳴ると暑さがやわらぐ。いわゆる”心の清涼剤”なのであろう。私は、店舗の前に2本かけるのを手伝った。

他の人たちは、アーケードに風鈴がつけられたさおをぶらさげる作業をしていた。去年は、さおに風鈴をつけていく作業を杜のざっかやさんでやった。今年は、外でしたのですごく暑かった。風鈴をつけ終わったさおを一旦おく場所がなかなかできなかったので、少しイライラした。まず最初に風鈴をつけ終わったさおを置く場所を決めておくべきだ。

さおにぶら下げる風鈴同士の幅をせまくしてもいいのではないかと思う。それと店舗の前にぶら下げるさおを２～３段にすれば、アーケードの欄干にぶら下げる手間も省けるのではないかと思われる。

商店街の方々もこの風鈴街道のことはご存知とことと思うので、鴫野商店街の関係者の方々と話し合って開催した方がいいと考える。

中国から伝わったかもしれない？七夕と違って、風鈴は日本独自のものなのだろうか。この風習（祭り）はいつから始まったのかは、寡聞にして知らない。ざっかやの前に風鈴が売っているけれども、全くといって売れてないみたいだ。風鈴街道もそうめん流しのように、内容を説明したチラシを作成して一か月目辺りからポスティングしてみてはいかがなものだろうか。

風鈴の下にぶらさがっている紙を変えてみるのもいい。七夕まつりにつける飾りのごとく。飾り付けている風鈴を撮影してインスタグラムに載せるのもいいかなと思う。各事業所でさおと風鈴をわけて、さおに風鈴をつけるようにすれば暑い思いもしなくて済む。

風鈴の下にぶら下がっている短冊に俳句や今の社会を皮肉ったりする川柳を書いてもらってみるのもよい。そのための受付を七月初めからする。

風鈴街道にも、色色と変えた方が良い点もまだまだあると思う。



鴫野の魅力再発見

no.2

インタビュアー 中島 秀樹

ランチ550円
安心する味

さぼり

大阪府城東区鴫野東3-14
月～土 9:00-16:00



★鴫野東エリア　家族のようなお客様が集まる、地域の憩いの場所



　鴫野活性化プロジェクトの一環としてお送りしてますこの企画、今回は南鴫野商店街内にある杜のざっかやさん本と窯のお隣にあります喫茶店「さぼり」さんに行ってました。
　ドリンクは300円、軽食はほぼ500円で提供してくれる一方、常連さんが毎日詰めかける地域の憩の場所になっています。そんなお店のママにお話をお伺いしました。







小さい頃から知っている地域の方々が来てくれる

中島　よろしくお願いいたします。「さぼり」さんはどういう経緯で生まれたのか、その時の商店街はどのような感じだったのかお伺いしたいと思いまして。
さぼりママ　私の実家なんです。以前、青果業を営んでて、その後に貸し店舗として喫茶店を貸してたんです。その人が高齢者やから辞めて空き店舗になってたので、喫茶をしますと店舗を改装して。一応その時は、夜ショットバーもしてたんですけど、私が体弱くてお昼だけに。だから、9時～16時という形態になります。
中島　普通の喫茶店で、朝7時ぐらいからやってるとか言いますけど。
ママ　晩やってたので、9時ぐらいしか営業できなかった。ここの商店街は出勤者の人は通らないです。朝明けても誰も来ない。だから結局、来られる方は常連方、地域の地元のお客さん。私を小さい時から知ってるお客さんがメイン。
中島 なるほど。その方が逆に安心するのかもしれないですね。
ママ　親を知ってるんでね。
中島　昔は結構賑わっていたんですか?
ママ　そうなんです。ずいぶん昔ですよ。2～30年前かな、人通りがもう多くて。その時は商店街として主力になる魚屋、肉屋、八百屋、それが2店舗くらいずつあったんです。それが魚屋はなくなる。肉屋はなくなる。で、もうほとんど無い。もう商店街自体が、15、6年前からもうあかんね。
中島　やっぱりあれですかね、スーパーとか。
ママ　そうです、そうです。スーパー行ったら何でも買えるわっていう意識があるんでしょうけどもね。まず豆腐屋がなかったら開きませんでした。うちが八百屋してて、豆腐屋さんに隣が魚屋さん、ちょっと行ったら肉屋さん。買い物まかなえてたんですよ。それがスーパーができて核家族になって人数少ないから、いる分だけでいいのでスーパーが流行りだした。
中島　そうですよね。
ママ　だからもう商店街自体があかん。
中島　僕の実家は蒲生の方なんですよ。城東商店街。小さいスーパーの出原っていうのがあるんですよ。80年くらいやってるのかな。地域に目指したお店で商店街共々頑張ってるんで、南鴫野商店街もやっぱり頑張ってほしいなっていう気持ちはありますね、僕の方では。
ママ　この商店街の魚屋さんだった人が、出原で魚屋をしてるんだけど、結局城東商店街もあかんようになって。城東商店街は地域活性で、そっちがすごいイケイケモードで流行ってる。
中島　蒲生四丁目でよく見ますね、確かに。
ママ　蒲生四丁目は古民家リノベして、色んなところができてる。飲食店ばっかりある。だからこういう小売業者っていうのが、ダメだと。
中島　僕実は昔、卸売会社におったんですけども不況でなくなりましたね。いろんな意味でやっぱり変わってきてるのかな。
ママ　そうですよ。思いますね。
中島　常連客さんや地域の方々の交流で、何か特別な思い出とかございますか？
ママ　まず私らは、ここが実家であって、商売はしてるけど、自宅は別のところにあって、店が終われば帰る。イベントとかそういう時の協力はさせてもらって。
中島　うちの理事長が、グイグイ引っ張ってる感じでね。風鈴街道もそうです。七夕の方も。
ママ　これこれすんねんけどって、絶対必ず声かけてくれるから、どうぞどうぞって。風鈴もよし、七夕もよし、なんでもしやったらっていうのは言ってます。理事長さんと年近いのかなんか知らんけど、仲良くさしてもらってる。
中島　そうですね。 理事長は結構積極的なとこがあるので。
ママ　だからいろんな障害者さんいてはる。
中島　僕もこう見えても、発達障害持ちなんですけどもね。利用者が言いやすい関係を目指してる感じがしますんでね。
ママ　私らはね、そうそうさんの子らが毎朝前を通ってて、ちょっと重度の子なんかでも、大きい声で通ってきてはるけど、必ず声かけるようにはしてる。声かけてきてくれやるから、 仲良くはさしてもらってて。
中島　ありがとうございます。
ママ　掃除もしてくれやるしね。 だから、私ができる協力はさしてもらおうと。私とこの親族の知り合いがshokudoの方で働いて、去年の6月からお世話になって、その関連もあるからね。そうそうさんとは懇意にさせてもらってて。
中島　そうですね。 皆さんの協力があってのことだと思いますね。次の質問です。このお店は地域の中でどういう存在になっているのか。
ママ　憩いの場やね。年配が多いんで。この地域のことをよく知って、私以上に知っている年配の方が色んな情報を教えてくれるし、お客さんの入れ替わりは少ないです。1組が来たら2時間くらいいるから。私はもうそんでいいんです。コミュニケーションの場って。



さぼり ママ
地域の方々に愛されている明るいママ

中島　そうそうの人間がどんどん来て、コミュニケーションをしてもらってもありですよね。
ママ もうそんでいいんです。だからそうそうさんと職員の方とも仲良くさせてもらってます。
中島　誰か職員来ます？
ママ　理事長は店に来てくれます。
中島　そうですか。ありがとうございます。
ママ　あとの職員さんは忙しいから。でね、西っていうそうそうの方、重度障害の車椅子の男の子を押してきて、その子、コーヒー好きらしいんですよ。その子にコーヒー飲ましてて。
中島　はいはいはい。僕、昔、今福事業所（現・Prife）があったときに、お世話になってます。意外なつながりがあったんですね。ちょっと僕もびっくりしました。
ママ　西さんは昔からなんです。重度障害の子を連れて、コーヒー飲むのも車椅子止めて外で飲ました。すごい重度の子やから、車椅子から降ろして、抱っこして連れてこられるから、そこで飲まそうよって。
中島　すごいな。いろんな関わりがあるんですね。オープンした当時と、現在では地域やお店に変化とかあったんでしょうかね。
ママ　そうやね。前はイベントとか非協力的やったから。それがちょっと協力するようになったかな。そうそうさんがこっち側でお店するようになってから、店主たちが今までお店出すのも何やかんや言ってたけど、私は率先して、いいです、やってくださいというふうに言い出してからかな。なんか協力的にはなった。最近。
中島　それは理事長がこの町を気に入って、活性化させようと努力してると思うんですよ。
ママ　この商店街の重鎮の谷本さんがいたでしょ。あの人が、一生懸命いろんなことを協力してくれた。協力できることは、お手伝いできることは、我々商店街もせなあかんでというような話もあるから。それで地域の皆、そうそうの障害者にもおはようってやったはず。
中島　そうですよね。僕も一時期そこの古本屋たまやにいたことがありましたけども、お茶屋さんのご主人とか、鶏肉の黒江さんとか、結構応援していただいてありがたいなと思ってます。あと、地域に役立ってると感じるエピソードとかありますでしょうか。
ママ　まず地域の盆踊り大会ね。それとかここの夜店。そういうの盛り立てて行ってくれたから、人数はしっかり増えましたね。去年は売り損じた部分があるんだけど、谷本さんも地域の人に言って今年は盛大にやろうということで。
中島　そうですね。僕もちょっと手伝いに行きましたけども。
ママ　そうそうの店、すごかったですからね。焼きそばが売れてて。一番すごかったのはかき氷で。 列が途切れなくて。
中島　ありがとうございます。特に印象に残ってる地域の出来事とかありますでしょうか？

静かだった商店街が発展してきているのが嬉しい

ママ　一番は年1回の夜店。それは盛り上げてくれたなと思います。
中島　ありがとうございます。このお店が地域で長年愛され続けている理由というのは？
ママ　このお店は地元の幼い時から私を知ってくれているお客さんらが集まっている。だから地元でありがたいなと思う。これ他の土地行って商売してもここまで持たない。
中島　そうですよね。
ママ　家賃もいらないし、もし私が若かったらここではしてない。 儲けられない。
中島　そうですよね。色んな喫茶店がありますけど、最近オシャレなの結構ありますけどね。
ママ　あれもね、とっつきにくいところが。私は地元で昔から知っているなじみさんが来てくれるのがありがたいから。もう11年なのかな。
中島　結構長いですね。
ママ　それまでは よそで店してたからね。今の方が気楽。気楽にゆっくり楽しめる。もう私も年が年だから、もうゆっくり楽にしたいよね。
中島　そうですよね。
ママ　仮に私の店舗やから、私がもうしりぞいても誰かに貸すことができるから、その後のことは、貸した人を信じて商店街に貢献しようというのが。
中島　たぶんね、うちの理事長はそういう話聞いたら食いついてきますよ。
ママ　隣にしても声かけもしてるし、いつも協力はしてると思ってるんです。
中島　ありがとうございます。最後にそうそうの杜の活動をどう思われているかというと。
ママ　いいことだと思ってます。それしかないです。暇な静かな商店街がここまでなって、空き店舗さんが借りるようになってきたからね。今度、交番所の前にも健康食品のお弁当ができる。その隣にたこ焼き屋さんができるので、だんだん埋まってきているのが嬉しいです。
中島　そうなんですか。
ママ　喫茶店もできたし、交番の前に小さい3人か4人ほど入る手作りのケーキ屋さんのお店があるんですよ。そこも結構お客さんはいらっしゃるし、店舗が増えてきているのは嬉しいですね。もっと空き店舗が埋まっていって、この鴫野自体が盛り上がればいいかなと。ただ店舗の持ち主さんがちょっと非協力的な人もおる。そういう人も無視して、協力しましょうということはしてますね。
中島　今後もこの鴫野を盛り上げていきましょう。今日は本当にありがとうございます。
ママ　それではよろしくね。
中島　ありがとうございました。

特集



これまでのそうそうの杜 これからのそうそうの杜

ベテランスタッフ、新人スタッフに、それぞれの目から見たそうそうの杜を語っていただき、多角的な視点からそうそうの杜の歴史を創る新企画です。



＼勤続20年／

田島直人

profile

所属　創奏

好きな食べ物	家のご飯
好きな曲	The beatlesの曲
行ってみたい場所	常泉寺

ひとこと　私に関わって下さる皆様いつも有難うございます。



＼勤続2年／

則竹砂耶

profile

所属　げんげん

好きな食べ物	クッキー
好きな曲	特にないです
行ってみたい場所	ニュージーランド

ひとこと　毎日元気にがんばります

これまでのそうそうの杜



創奏　田島 直人

2004年、秋。街には金木犀の香り。匂いは記憶に直結し鮮明に脳裏にいつでも映像が浮かびあがる。初日、軽トラックに乗る。ある事情で引っ越さなければいけない方の家財運びが最初の仕事。最初に覚えた事はロープの括り方。助手席の窓から件の花の甘い香り。時代的には丁度支援費制度が終わりかけ、自立支援法反対のデモが各地で行われていた頃。きっかけは外国から帰ってプラプラしていて弟が通う作業所に出入りしていた事から。学校で福祉を学んだ事はなかった。それが働き始め自分自身が楽しくて、こんな生きていれば当たり前にすることでお金を貰っていいのかしら。当時今みたいに大所帯ではなくまだ数か所の事業所のみ。小さい分同じ方向が見やすかったかな。先達の方々の想いもキラキラしていた。あの頃は今の様なサービス業ではなかった。仕事も教わるのではなく見て覚える体で覚える。法人や時代や制度、昔の方が良かったとは言わないが、私の中で今の時代違和感はある。楽しい事と振り子の様に辛かった事も同じだけ。入った頃は訳も分からず利用者に怒鳴られたり叫ばれたり殴られたり。運転中の助手席のガラスを割られたり、眼鏡を壊されたり、生活保護費を持ち出され旅に行かれたりエトセトラ、他にミスも沢山。辛い別れもここには書ききれない位沢山あった。よく利用者が抜け出して行方不明になって夜中に皆で探した事も多々。捜索願も何度出したか。本当色々な事があった。泣きながらした事もあったが今となっては楽しく語れる、これって大事。それで今の自分がいるのだから。

その中から最初に関わったMさん。大きなコロニーから出て地域で生活を始めた矢先、末期癌である事がわかった。入所時代の杜撰な食生活もあったか。わかってからずっと一緒に過ごし、２人で姉妹がいる宮崎へ旅行にも行かせて貰った。下血して入院してからはずっとモルヒネ打ちながらパンパンに腫れた足をずっとさする事しかできない私。最後は彼の「家」であるＧＨで看取りたかったが、本人がもういいと病院で亡くなった。これからやんか、悔し泣きは初めてだった。20年経った今でも毎年命日の9月と彼岸には京都の墓に行き、彼の好きだったコカコーラと花を添え自分や世界の近況を報告しに行く。

他にも書ききれない事が沢山。今朧げに考えていること、障害というのは極論だが社会の側が作り出している。我々の役割は様々な方法で時には黒子となり地域や社会との壁を取り除く事と繋ぐ事。福祉とは各々の価値観でそれを押し付けずに幸せを感じ合う事。地域で自分らしく生きる。これって当たり前のことやのにね。この仕事は知識や経験ではなく人としての想いや機微が大事。それは昔だろうが今だろうが変わらない事。撒かれた種をどう咲かせようか。



これからのそうそうの杜



げんげん　則竹 砂耶

私がそうそうの杜に入社したのは2022年10月でした。きっかけは、障害者の地域生活に関わる仕事がしたいと相談すると、そうそうの杜を勧められたことです。入社後配属されたげんげんは、重度の知的障害の方が多く、それでも自宅や下宿屋など地域で生活されています。げんげんでも利用者とお店に買い物に行き店員さんに顔を覚えてもらったり、城東小学校の子どもたちの下校時の見守り隊をしたりと日々地域との関りを楽しんでいます。

これからのそうそうの杜を考えた時に、強く感じるのは高齢化の問題です。入職後約２年という短い期間ですが、下宿屋に入居になったIさんのように、利用者本人だけでなく主な介護者である両親が高齢化して家での生活が難しくなってきているケースが多く出てきています。現状、利用日数を増やしげんげんで入浴を実施するなど、極力家での生活の負担を減らせるよう尽力しています。しかしそれでも今後家庭で暮らし続けることが難しくなってくると思われます。

利用者が家を出た後の生活の場を探そうとしても、げんげんの利用者は重度の方が多いため多くの介護者を必要とし、住環境についても様々な条件が必要となってくることが多いです。それ故に現状のそうそうの杜の下宿屋でその全員を受け入れることは難しいかもしれません。しかし、ただ入所施設ではないというだけではなく、慣れ親しんだ地域で、その地域に根差した生活を続けてもらうためにも、できる限りそうそうの杜で受け入れられるようにしていきたいと思います。

今げんげんの利用者は、その多くが長年にわたってそうそうの杜を利用してくれています。利用者の家族と話をさせていただいた時も、長年築かれたそうそうの杜への信頼を強く感じました。その信頼を嬉しく思うと同時に、その信頼故に大切な家族を預けてくださっているということを痛感しています。その信頼にこたえるためにも、今後利用者や家族が困った事態に直面したときに、その受け皿となれるそうそうの杜でありたいと思います。



Myanmar

ミャンマーについて。

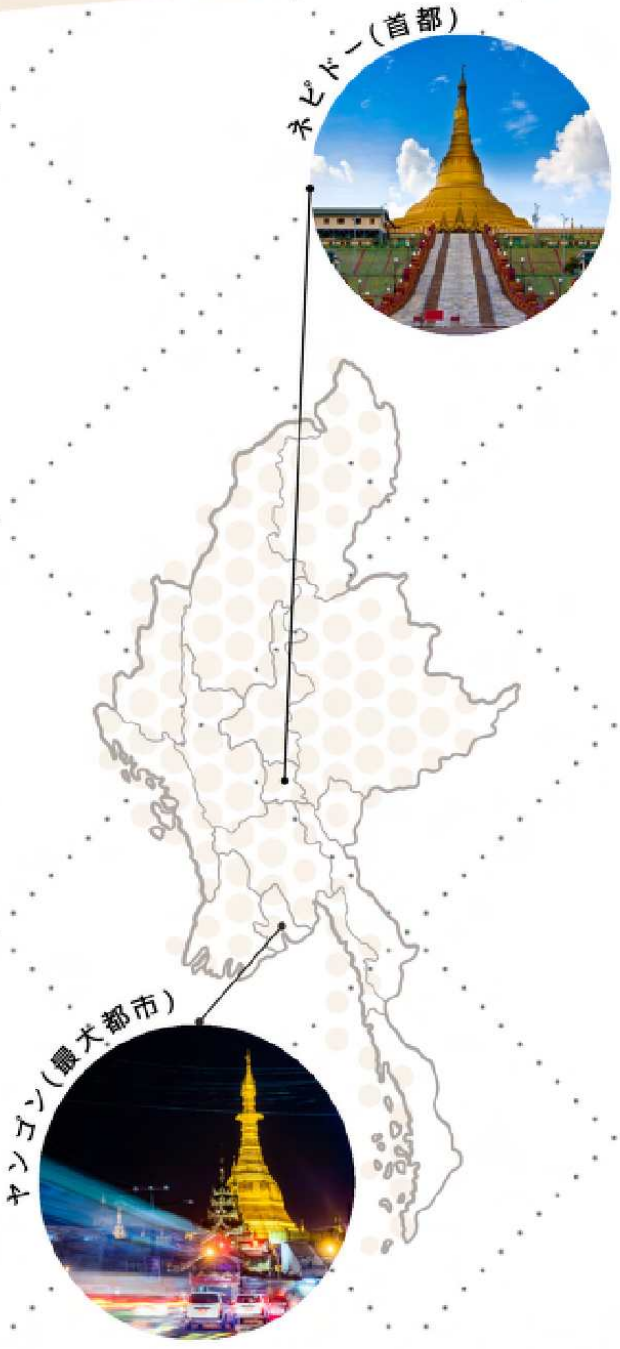
ミャンマーと言うと綺麗な海、美しい山があり、文化や言語が違う民族たちけれど全国は仏教を信じいてる人が多いです。以前、ミャンマーに住んでいる人たちはお互い依存し、経済も成功し、平和国だった。実は私たちのミャンマーは美しい国で仏教の影響が全国に溢れて平和な国でした。仏というのは平和の意味なのでミャンマーと言う国はずっと平和になるようの意味と同じです。現在は以前と全然反対に貪欲、怒りなどがあり、国内で内争が起こって苦しみ、泣き声、悲しみ声などが全国を溢れていて死体が多い国になってる。

1948年一月４日ミャンマーは平和になり、それからミャンマーを管理する人たちは公平が無いし独裁者のグループが権力乱用をしていた所が始まり、ミャンマーで内争が起こってきた。長年独裁者たちは国を破壊してきた。民族の中でも仲良くならないように悪口で一人一人を嫌いな事になるように刺激していた。それで民族たちが努力にならないで憎しみが出来てきてた。2021年2月１日ミンアウンラインさんから国が閉鎖されていた。そしてミャンマーの民族の軍が、一斉に独裁者M.A.Hさんのと戦ってきた。NUGか春の革命というPDFたちが独裁者たちを武器を取って革命してきた。その中で北部同盟の兄弟というAAはミャンマーの西側にある、ライン民族が住んであるラカイ州17町の中で12町を国の軍から掌握することができてまだ残っている所を続けて戦っている。それ影響て故郷の周りを国の軍が街の中から外へ出れないように入り口を閉まっているので今は輸入輸出はできないので街ではお金があるけど食べがなくて買えないので市域の人たちの生活は危ない事になっている。民族の軍が勝ってもらった所にも国の軍が飛行機の爆弾で爆発しているので市域の人たちはいつ死ぬの？を恐怖の中で生きている。それと国の兵士たちが地域の人たちの家から貴重品を窃盗し、女の人を無理やりレイプすることが他の所にも同じ事が起こってる所がおおいです。それ以外、ラカイ軍AA,コーカン軍MNDAA,タゴン民族解放軍TNLAなどお互いにM.A.L国の軍と戦ってくにM.A.L国の軍が体力が落ちてきて負けている。だからミャンマー人若いもの男なら18歳から37歳まで女なら18歳から27歳まで徴兵制度が起こっていた。

どれだけ悪いことをやってもどんどん国の軍たちのエネルギーが弱ってきてもうすぐ日没ななってきて最後には喪失で終わりはずです。まだ言いたいことがあるけれど日本語の言葉が難しいなのでこれで終わります。

以上

AUNG NYEIN SOE（アウンネインソー）
TIN HTAR THWE（ティンターットゥエ）



そうそうの杜には今回この文章を書いてくれた２名を含む10人のミャンマースタッフのほか、韓国、スリランカの2名のスタッフが働いてくれています。

彼らは日本語能力検定試験を受験していてN1～N5ランク（N1が一番難しい）のうち、N2かN3ランクの試験に合格しています。話す言葉も働き始めた時から比べると数段レベルアップしていますが、日本語には漢字もあり日本語で文章を書くことはかなり難しいようです。

今回はミャンマースタッフ2名が母国の状況をレポートにまとめてくれました。今回はあえてそのままの文章を掲載しています。読みにくいかもしれませんが難しい日本語で頑張って書いてくれました。私たちは遠い日本からしかミャンマーという国を見ていないのでなかなか情報が入ってこないですが、ミャンマーの現状として、私たちが思っている以上に苦しんでおられる方々が多いことがこの文章からも読み取れます。早くミャンマーに平和が訪れることを切に願います。また皆様にも少しでも現状を知っていただければ幸いです。

庵スタッフ　松本智幸

エッセイ

關 宏之

01 CINEMA館

暑い熱いを連呼する日々です。私は、8月8日生まれで、“夏男だ！”と豪語したいのですが、暑いものは熱いですね。みなさまのご機嫌をお伺いします。

当方は、平均年齢80歳を越す入居者が主体の自立型の高齢者住宅で、断捨離を断行して越してきた人たちの8年後は、「終活・認知症・財産整理」などに翻弄される日々で、地域包括支援センターと連携した「認知症関連」の講演が多くなり、疑わしい人たちも巻き込んで正真正銘の「認知症」に囲い込むようになりました。

この住居には、同好の士が集うクラブがあり、三々五々集まって烏合集散をくりかえしていますが、唯一欠けているのが“お笑い”だということで、今期の理事長が友人の文珍さんにお願いして寄席がもたれ、住民は笑いの渦に引き込まれたものです。

これを機に、さる放送局の重鎮だったという理事を中心に、主として映画を提供するクラブの創設を企図して映像機器が購入されました。この方と同じ階で、たまたまエレベーターで鉢合わせをし、クラブ創設の意見を求められたので、「いいことですな」と応じたのですが、後日この御仁に呼び出されて「映画会を作れ！」とのたまう。文句を言うたら「君は賛成したではないか」ときつい一言。

覚悟して、気心の知れた人を中心に人選を進めました。「私ブルーノートで歌ったことあんねんョ！」という不動産業を営む隣の奥さん、大きな目を輝かせて持論を展開される好奇心旺盛な元女学生、「お父ちゃんのガンが心配や！」といいつつも世間話大好きの社長夫人と私の四人でクラブを構成しました。男性にも声掛をしましたが、「歳や、忙しいねん、ほかの人に頼んで」と毎日サンデーの皆さんは、煩わしいことには関わりたくないようです。

“CINEMA館”と称して、「あのころはときめいたもんだ。うふふ…」と意味深のポスターを掲示してスタートしました。会場はレストラン、コーヒーはご自由に、耳の遠い方のことを考慮して字幕スーパーのある海外の映画とし、総勢20人も集まられれば大成功だとしました。司会は、ブルーノートの彼女で、「いややわー」といいながらも結構悦に入っています。

私の役割は、ポスターとちらしの制作。初回は「ローマの休日」、2回目は盲目の少女との淡い恋を描いたチャプリンの「街の灯」、3回目は「サウンド・オブ・ミュージック」、4回目は「黄色いリボン」、今月は「チップス先生さようなら」、来月は「風の谷のナウシカ」と決めています。私が所有しているDVDを使っています。

オードリー・ヘプバーンは「昔の私のようや！」、「街の灯」をご覧になったある方は「私もあんな風な恋がしたたかったわ…」とはにかんでおられました。「サウンド・オブ・ミュージック」はリクエストに応じて、「ジョン・フォード監督、ジョン・ウェン主演」の「黄色いリボン」は、男たちは優しくて勇敢な生き物だったんだ！と密かな思いを込めて、「風の谷のナウシカ」は大気汚染や戦争の渦中にあって、ナウシカというお嬢さんに救われる宮崎駿監督の初期のアニメです。

日頃の“うつうつ”や認知症らしきものを押しやって、あの頃の自分に浸っています。

Movies

エッセイ

關 宏之

02 夜の訪問者

今年は、よく田舎に帰りました。田舎の家屋や田畑の相続登記のためです。相続に関係のある人たちの意向調査から始め、司法書士から指示された父母の登記簿謄本などおびただしい書類を集めて、どうにか完了しました。これでやっと、町の「空き屋バンク」なる制度に登録でき、ホームページに紹介されて家屋の賃貸や売却が可能になりました（但し、田畑はもっと複雑で、そうはいきません）。

母が亡くなって10年以上になりますが、当時からバリアフリーで、住むには不都合はありませんし、エアコンやシャワーなどの設備は不都合が生じるたびに更新してきましたた。移住交流センターや町のまちづくり課の方のお墨付きで、きっと応募者がありますよ、ということでした。

今年のお盆も1週間の夏合宿となりました。自炊は苦ではなく、ある程度の食品やカミさん特性のカレーを冷凍して持参し、電動自転車で近くのスーパーに買い出に行き、結構しゃれた料理を作り悦に入っていました。仕事といえば、家の掃除、お墓の掃除やお花の入れ替え、和尚さんの読経の付き合い、お盆の提灯の出し入れ、など、誠にゆったりとしたもので、9時なるとぽつんと街灯が暗闇を照らし、虫の音が聞こえ、夜は、深々と更けていきます。

このさなかにとんでもない穏やかならざる一件が勃発しました。天井裏で「トン」という音とともに動物たちが運動会を催しているようです。家屋を管理してくれているいとこによると、数か所に侵入の痕跡があるというのです。集落は過疎化が進んで、夜の7時にもなると、閑散として歩行者はなく、恐らくはタヌキやキツネの天下だとだと思っていたのですが、平時は全くの空き屋のわが家ですから、若い害獣たちお互いに声掛けでもして集まり、どんちゃん騒ぎでもしていたのでしょうか。

早速専門の業者に見てもらいました。フンを調べたらイタチだということで、もう何代も前から棲みついているのではないかといいます。彼によれば、ある家ではアライグマが住みつき、押し入れで4匹の子育てをしていたとか、天井でテンが死亡し、その臭いが充満した家があるなど、恐ろしい話ばかりをします。

駆除には2日間かかること、一度イタチ家族を追い出してから侵入口を閉じる作業をすることなど処方法を説明してくれましたが、その費用たるや半端ではありません。イタチごっこは困るよというと、１年間の保証付きですという。

私の代で先祖の財産や苦労を放棄するしかないか、家も田畑も手放すしか仕方がないか、と思っている矢先の出来事で、どっこい、土着のイタチたちは、私よりもこの家に郷愁があって、「夜の訪問者」となったのかも知れないなと、妹と話したりしました。

町には田舎暮らしをしたい人のための事業や家の補修助成事業もあります。もし田舎暮らしをして、農業に従事し、この地で暮らしたい人があれば、家屋や田畑は喜んで提供します。町のホームページには「この家を譲ります」というお知らせが載っているんですが、多分、それを見たのは、かのイタチ家族だけだったのかな？と思ったりします。



エッセイ

03

和田 数子

体験格差

一冊の本を紹介します。『体験格差』今井悠介：著（講談社現代新書）本の帯に「子どもたちから何が奪われているのか？　これまで見過ごされてきた日本社会の課題」と書かれています。今さらと思うでしょうが、子どもに何らかの障がいがあることで「体験」にどのような影響があるのか考えてしまいました。

城東小学校のグラウンドでTさんと夏祭りに参加した時のこと、Kさんが盆踊りの輪に加わって実に楽しそうに踊っているのを見つけました。見ているこちらも思わず引き込まれ、少しずつ踊りの輪に近づき、身振り手振りを真似て一緒に手拍子を打っていました。Kさんを知る人から教えていただいたのですが、Kさんはこの地域の出身で、子どもの頃から夏祭りで踊りの腕を磨いていたのだろうと。一方、Tさんは誘ってみましたが恥ずかしそうに踊りの輪には入らず、遠巻きに眺めていました。「上手く踊れなくても体を動かしてリズムを取るだけでも楽しいよ」と声をかけましたが、体がこわばってしまいます。理由を聞くと、踊った経験がないとのことでした。輪の中に長いスカートで個性的な振り付けで踊っている女性を見つけました。覚えてしまえば単純な動作の繰り返しのようですが、不思議な体験です。人の心拍が同期するのか、動作を繰り返しながら上手な人の動きをじっと眺めていると自分の身体も自然に動いていく。立ち尽くしていたTさんも結局踊りが終了するまで、心の中で踊っていたのかもしれません。

「そうそうの杜」にはいろいろな体験があります。餅つきや流しそうめん、ボッチャやモルックの大会、運動会に忘年会。グループでの旅行や陶芸や絵画の作品展。ダンスで体を動かしたり、ランニングや健康体操をしたり、クラブ活動もあります。商店街にピアノが現れ、耳で覚えたメロディを音に変換して楽しんでいる方がいます。

私に何かできるとしたら、どんなことがあるだろう。一緒にできることがあれば、こっそり教えてください。皆さんの「体験」の機会を増やせたらとても嬉しいです。

「格差社会」という言葉が使われるようになって久しい。日本では子どもの貧困が６人に一人の割合になっているという。（『厚生労働省公式発表「子供の相対的貧困率」2014年7月発表』より参考）いじめや不登校、虐待やヤングケアラーに対する実態調査が行われるようになったのも、たくさんの悲しい事件があってからのことでした。

してみたいと思ったこと、やってみたいと思ったことを見逃さないように、これからも暮らしを見つめていきたいと思っています。





闇宏之

第2回『クォ・ヴァディス』

福祉に携わる者なら

Quo vadis, Domine?（主よ、どこに行かれるのですか）

想創奏59号からの新企画として「福祉これだけは見てほしい:副題(業界に勧めるなら必見といえる書籍、映画などを紹介する)」という課題が与えられ、59号では、第1回目の紹介として、私が座右の書とする「次郎物語」について書かせていただきました。第2回目は「クォ・ヴァディス」について書きます。

そうそうの杜のスタッフ研修も3年目となりました。体系的に社会福祉を学んだこともなく「現場の大将」による物語のダイジェスト版を北橋さんの卓越した編集の助けを借りて、法人のユーチューブで「福祉の本質」として公開されておりそれを参照して頂ければと思います。

1.書籍

ポーランドのノーベル賞作家シェンキェヴィチ(Henryk Sienkiewicz)(1846—1916)が1896年に出版した「クォ・ヴァディス: ネロの時代の物語」は、古くから日本語に翻訳されて、「何処に往く」(松本雲舟訳 昭文堂、1907 - 1908年、合本版 1911年)以来、9人の訳者によって翻訳されたいわばポピュラーな書籍といえます。私が学生時代に寮の先輩から詳細な解説入りで紹介されたのは、河野与一訳の岩波書店(岩波文庫 1973年20刷)版の小さな文字の並んだ3冊の文庫本で、当時の私は、誠に忙しい青春の真っ只中にあって、先輩の勧めをスルーしてしまいました。

それでも気になって、評論を読んだり、教会の説話で聞いたりして「クォ・ヴァディス」を次のように理解していました。西暦1世紀ごろの皇帝ネロの治世下のローマで、キリスト教徒への迫害や虐殺が日常化し、ローマで活動していたイエスの最初の弟子であるペトロは、迫害を逃れてローマから郊外に向けて歩いていたところで、彼はイエスに遭遇し、驚いて、Quo vadis, Domine? (主よ!どこに行かれるのですか)と問うと、イエスは「そなたが私の民を見捨てるなら、私はローマに行って今一度十字架にかかるであろう」と答えます。ペトロは来た道を引き返し捕らえられ十字架に架けられて殉教した。

2.DVD

2010年頃に、MGM(Metro-Goldwyn-Mayer Studios Inc.)のDVD版「水野晴郎のDVDで観る世界名作映画」で「クォ・ヴァディス」(1951年/アメリカ)を500円で購入しました。MGMは、ライオンの雄たけびをオープニングのロゴとして使用し、「ベン・ハー」「風と共に去りぬ」などの豪華な「大作主義」で知られる映画会社です。

その解説に、「あの『暴君ネロ』が支配したローマ時代。ネロはキリスト教徒の弾圧に全力をそそぎ、自分を天下の大天才と信じ、新しいローマを創ると称してローマの街に火を放つ。炎上するローマ。逃げ惑う群衆。「007」を作ったMGMが総力をあげて作り上げた大作で、MGM映画のトップスターや名だたる共演者などアカデミー賞に輝いた大物の演技をたっぷりお楽しみあれ」と紹介され、ネロの治世下のローマを舞台に、若いキリスト教徒の娘リギアと、ローマ軍人のウィニキウスの恋愛を中心に、ローマの上流階級の堕落した生活や社会、キリスト教徒への残虐な迫害の様子が描かれ、「ベン・ハー」でもみたような大掛かりなハリウッド仕様の歴史劇に美男・美女のロマンスをからめ、"QUO VADIS"というこの映画の主題には、それほど重きを置いているようにはみえませんでした。

3."Quo vadis, Domine?"

「クォ・ヴァディス」にまつわる話は、2世紀末頃に生まれた言い伝えに由来しているといわれます。これによりカトリック教会はペトロを初代のローマ教皇とし、サン・ピエトロ大聖堂はペトロの墓所の上に建設されたと伝えます。ペトロは岩という意味をもち、しっかりした岩盤の上に立つ2000年も続くカトリック教会の礎であり、"Quo vadis, Domine?"は、ペトロの運命だけではなく、その後のキリスト教の栄枯を象徴するものことになります。

しかし、ペトロは、聖書によるとイエスの弟子であることを3度否定し「ペテロの否認」として描かれるほど肝の据わらない優柔不断な人で、主題の"QUO VADIS"にしてもペトロ自身がローマ市民や信仰を棄て、自分自身を棄てて立ち去ろうとし、引き返すことになりましたが、それは自分の意思ではなくイエスの強い言葉によったものです。

キリスト教における説教のように聞こえますが、私の解釈では、"QUO VADIS"は、ペテロのように逃げる弱い自分への問いかけであり、"待ちなさい! 留まりなさい! 側(がわ)に立ちなさい"という自分の内なる声に聞こえます。

ものすごく暇な時に、読書、鑑賞してみる価値はあると思います。

『Quo vadis』は来年以降、そうそうの杜出版にて電子・音声書籍化予定。ぜひ御覧ください。

そうそうの杜

自慢のグルメ2

発酵薬膳&cafe

Kawasemi

山口 佳純



自家製塩麹を使ったサバの塩麹焼き

市販では出せない手作りならではの優しい味がします。



豚と長いもの生姜味噌ソテー

たっぷりの生姜のみじん切りとお味噌に隠し味の黒酢を入れたソースです。ご飯にも合う人気メニュー(^^♪



豆腐を使ったレモンチーズケーキ

豆腐をベースにした優しい味のケーキです。さっぱりしているのでお食事の後に召し上がる方がたくさんいます。



鶏モモと柿の照り焼き

秋の定番メニュー

定番メニューも人気ですが、食事もデザートも季節に合わせた内容に変え、お客様を飽きさせないよう工夫しています。

荒川理事長の畑で採れた野菜や道の駅で買ってきてくださる変わった野菜もたくさん使っています。
作る人が増えたことで幅が広がり、個性あふれる料理を提供しています。



Gourmet



歌うように描くように
『自分』を表現する

sousouartist

そうそうの杜アーティスト

第2回 秋吉奈々さん

文・駒澤 美羽

今回紹介するアーティストは秋吉奈々さんです。彼女は普段からオリジナリティあふれる絵を描くのを得意としており、陶芸でも絵を描くのが大好きで土に竹串をつかって線を引き絵を描くことが多く作品にあります。特に動物の絵が多く使われて、書くときに「動物！動物！パンダ！」など話しながら描きます。他にも（ハートの羽、ストレッチマン、金田一少年、ロボット）などが出てきます。どれをどう選んでいるのかなどはわからないですがいつも即決して書き始めます。

はじめて陶芸をしたときは粘土で自分からゾウさんといいながら平べったいゾウさんを作ったりすることが多かったのですが陶芸を何回もやるうちに立体を覚えそれ以降はなんでもちゃんといろんな方向から見て立体で作れるように。見本を作るとそれを見て自分風にアレンジしながら作っています。その後は器に絵を描くことを覚えました。作業はとても早く何でもすぐに作ってしまいます。最初は5個と本人が決めて5個書き終えたら今日の陶芸はおしまいといった感じにしていましたが、徐々に慣れ30分間はしっかりと陶芸をするように。

今後は秋吉さんが良く書くデザインを立体のオブジェにしたり、もっと大きなお皿に絵を描いたり、秋吉さんワールドの作品を広げていきたいです。

第3回 征木 賢人さん

文・駒澤 美羽

もう一人は征木賢人さんです。最初のほうは粘土を見るもあまり興味は示しませんでしたが触ってみると感触がよかったのか笑顔で触ることが増えました。そこから丸く丸めることを覚えたり、土をちぎって上に重ねてタワーみたいなものを作ったり、かぎヘラをつかいでっかい塊を掘っていったりと色々な表現をしています。窯で焼いても爆発することが多く作品として残っているものは少ないですがたくさんチャレンジ中です。お家のお花など飾っている花壇に作品を飾っているそうです。



ふしぎな鴫野の大冒険

大人気第2話

おいもの国のアリス

Alice in Potatoland

第2話「いったりきたり」

漫画・北橋 惇
表紙イラスト・西野 真梨恵

前回までのあらすじ
南鴫野商店街にある不思議な鍵穴から、おいもの国に迷い込んでしまった城東中学校2年の鴫野アリス！おいもの国のうさぎたちは料理をつくることができなくて、お店『おいもの国のアリス』をオープンしてポテトチップを出してあげたら、うさぎたちは初めての料理に大喜び！でも「もっと他のおいも料理も出して」と言われて、ポテチ以外なんにも作れないアリスは大パニックに。どーなっちゃうの!?








『たまや』さんと
『半額書店』だよね〜っ
半額書店
『たまや』さんはすごくおもしろい古本屋さん！
みんなで本を持ち寄って貸し借りして、感想文をつけあうサービスがあるのテレビでも紹介されたよっ
本
本
本棚が鳥の巣箱になっててめっちゃかわいい♡
地域のみんなが本でつながれる、すっごく面白い取り組みだよね〜
もちろん古本屋さんとしても充実してるよっ♡
そしてもうひとつは半額書店♡
このお店では新品の本が全部半額で売られてるの！
きれいな本が安くてうれし〜♡
半額書店
幼稚園や小学校が近いから、こども用の知育の本とか、ママ用の料理本も充実してる♡
はじめてのかず
はじめてのひらがな
こういう本が半額で買えるなんてうれしーよねっ♡

今回は半額書店でレシピみよ♡

ふつうは立ち読みだめだよっ

アリス…どこにいっちゃったのかなあ…

はろー！

あっアリス！！

戻ってこないのかと思って心配したよ～

わたしが困ってる子見捨ててどっかいくわけないじゃーん♡

新しい美味しいおいものお料理作るから、お友達よんでー！

はーい

ざくぎりしたゴロゴロのおいもに、小麦粉とか卵とかいろいろまぜて焼いたら…

ごろごろさつまいものしあわせマフィン♡



わーおいし！

ふわふわですごい！

おいもあまーい！しあわせー！

ふふふ…そうでしょっ







まさかの女王からの呼び出し…！女王ってどんなひとなの？
うさちゃん相手にいい気になってたアリスピンチ！？
次回、アリスが女王に会うために旅に出ます！さらにあの発酵薬膳のお店が登場…！？
まんがに出てきたおいしいマフィンは「おいもの国のアリス」で本当に食べられますので来てくださいね♡
本屋さん「たまや」と「半額書店」も本当に南鴫野商店街にあるので、素敵な本との出会いがあるかも♡
鴫野とおいもの国を行ったり来たりするアリスのお店物語、みんなが知ってる色んなところをアリスが旅します♡

作者…北橋　幼少期の楽しみは、うさぎのぬいぐるみをつくること。うさぽよは小さいころからの持ちキャラです。

このたび東大阪の近鉄小阪駅のそばにレストラン1037（とみな）が開店しました。店主の大沼健一郎さんは、この10年間、障害者福祉サービスA型事業所Kawasemiにて調理を担当し、念願の店を開店することができました。Kawasemiではスタートから利用者として従事して当初から自分の店を持つんだと信念のもとに邁進してくれましたし、Kawasemiの重要なメンバーで欠かせない人材となっていました。目標であった自分の店を開店し営業をスタートさせ、とにもかくにもおめでたいので、1037が繁盛して大きく展開することを祈っております。つきましては読者の皆様も、機会がありましたらぜひ食事に立ち寄ってください。店の作りも素敵な作りになっていますので満足いただける料理が出てくると思います。どうぞよろしくお願いします。

荒川 輝男







「なりたい」を、応援します。



本の出版

自分だけの本をつくる、作家さんになる夢を叶えませんか？そうそうの杜出版部では、荒川理事長の絵本、利用者さんのエッセイをはじめ、続々といろんな方の作品を発行予定です。つくりたい思い、伝えたいことがある方は、いつでもご相談ください。文字入力ができなくても、音声録音から原稿を作成することも可能で、自分で書いた絵や作品、写真の画集も出版できます。



配信者

自分だけの思いを世の中に伝えられる、配信者になりませんか？

そうそうの杜では、多田さんの野球実況などの活動をはじめ、利用者さんが直接自分の声を伝えられる環境を整えたいと願っています。近年は障害ある方の配信者も増えてきています。伝えたい思い、配信してみたい趣味がある方は、世界でひとつの自分だけの動画を配信してみませんか？



VTuber

配信者になりたい思いはあっても、人前に出る勇気はなかなかないという方、VTuberになってみませんか？自分の理想のアバターを作り、思い通りの配信ができます。趣味の話、ペットの話、自分の居場所を自分で気ままに作っていきましょう。ゲーム操作が難しくても身体障害用ゲーム機器などもあり、マインクラフトなど自分の趣味や楽しみを充分に活かした配信をすることができます。

「なりたい」思いをいつでもご相談ください。

YouTube　Amazon出版

担当:北橋

社会福祉法人そうそうの杜
メディアリスト

YouTube



事業所紹介
各種ニュース

そうそうの杜の各事業所や最新のニュースを動画でお届けします



關宏之
『福祉の本質』

關先生を講師に招き福祉の本質に迫る福祉関係者必見の動画講座です



多田泰秀の
プロ野球速報

独自の視点からプロ野球について熱く語り尽くします



Prife
SmileTV

利用者が作る YouTube！
ここだけの企画が目白押し！

Instagram



発酵薬膳&café Kawasemi



杜の Shokudo



Lian の杜



おいもの国のアリス



杜のこうさてん



杜のごはん

coming soon…

ご援助いただきありがとうございます

社会福祉法人そうそうの杜では、当法人の理念や事業、目的に賛同される方、事業活動へのご支援をいただける方に寄付をお願いしています。書面にて大変失礼かとは存じますがお力添えくださいますようお願い申し上げます。ご支援いただいた寄付金につきましては、大切に使わせていただきます。また、寄付をしていただいた皆様には機関紙「想創奏」をお送りします。

寄付の方法は、以下の郵便振替口座にて御振込いただきますようにお願いします。今後ともご支援、ご協力いただきますように、法人として努力して参りますのでよろしくお願いいたします。

一般寄付（2024年5月16日～2024年10月18日にご支援頂いた方）
池田 勉、井上 宜子、今井 力、奥野 信子、金子 公子、国本 光子、倉川 俊介、阪口 昌通、進藤 久子、竹中 康豊、竹林 秀規、寺本 奈見子、外川 鉄治、中島 伸治、中島 敏之、沼守 紀之、兵藤 多美子、藤井 智恵美、森 貴宏、吉田 昭子、綿谷 三枝子、公益財団法人 明日佳 事務局長 鈴木 重男、ISOYU株式会社、一般社団法人 オノマトペ、特定非営利活動法人 さかえ会 代表理事 岸本大三郎、(株)田中止鉄工所、松野税理士公認会計士事務所 税理士・公認会計士 松野剛史、村田デンタルラボラトリー、若葉建設株式会社

（敬称略）

その他、地域の方々にアルミ缶・牛乳パック・おもちゃ、古本、中古家具等、様々な物品のご寄付を頂いておりますことを、心より感謝申しあげます。
いつも本当にありがとうございます!!

振込先
ゆうちょ銀行
口座番号：00940－5－185986
振込先（加入名）：社会福祉法人　そうそうの杜

社会福祉法人そうそうの杜



法人本部

城東区鴫野東3-2-26
Tel/06-6965-7171
Fax/06-6167-2622



地域生活支援センターあ・うん

相談支援事業
城東区鴫野東3-2-28
Tel/06-6969-8123
Fax/06-6167-2622



とことこっと

居宅介護・重度訪問介護・同行援護・移動支援・訪問介護
城東区中央1-6-29 2F
Tel/06-6167-7530
Fax/06-6955-8826



Prife

就労移行支援・就労継続支援B型・就労定着支援
城東区東中浜2-2-19
Tel/06-6923-8959



座座

就労継続支援B型
城東区鴫野東3-2-12
Tel/06-4258-6013



つむぎ館

就労継続支援B型
城東区鴫野西5-13-6
Tel/06-6180-6820



Kawasemi

就労継続支援A型
城東区中央1-6-29
Tel/06-6935-1111
Fax/06-6935-1911



杜のShokudo

就労継続支援Ｂ型
城東区鴫野東3-2-26
Tel/06-6955-8080
Fax/06-6167-2622



添

短期入所
城東区鴫野東3-2-5
Tel/06-6167-5395



創奏

生活介護
城東区鴫野東3-3-1
Tel/06-6923-8929



庵

生活介護
城東区鴫野東2-26-18
ぴんの郷 1F
Tel/06-6958-4745



げんげん

生活介護
城東区鴫野東3-18-5
Tel/06-6180-9670



いま福の家

生活介護・共生型通所介護・共生型介護予防型通所サービス
城東区今福南4-15-33
Tel/06-6180-7399



伝

児童発達支援・放課後等デイサービス
城東区鴫野東2-26-18 ぴんの郷 2F
Tel/06-6958-4746



心

自立訓練
城東区鴫野東3-2-26
Tel/06-6965-7171
Fax/06-6167-2622



北部地域センター（大阪市障がい者就業・生活支援センター）

城東区鴫野東3-2-28
Tel/06-6955-9921
Fax/06-6167-2622



杜のこうさてん

大阪市つどいの広場事業
城東区鴫野東3-3-3
Tel・Fax/ 06-6961-5505

鴫野商店街内
サテライト



Lianの杜



おいもの国のアリス



杜のざっかやさん



本と釜



だがしやさん

coming soon



coming soon

